

今回の災害では、給水所は屈足市街地に1箇所、新得市街地に4箇所を設けました。議員の話にあったとおり、水は本当に重たく、皆さんも苦労をしたと私自身も体験して思いました。その中で、町内会の方や知人・友人、いろいろの方がそう困っている人のために水を運ぶお手伝いをしている姿を拝見し、改めてこういう時に周囲の人たちの応援というものは本当にありがたいなというのを痛感しました。

今、私達の方で今回の災害にあたって行ってきたいいろいろなことを、それで良かったのか、どうだったのかという検証作業を始めています。その中でこれからどういった課題が出てくるか整理をしているところですが、地域で生活をしている人々を少しでも支えていくという意味でも、検証委員会の中できちんと議論をして、次の対応に繋げられるように努力をしていきたいと思います。

質問

(橋本七都議員)



橋本七都議員

私達は認知症キッズサポート・養成講座を受講し、認知症について学んだり、グループホームの人たちと交流したりしたことで、今後、自分たちにとってのよいことができるのを知ることができました。



大森奈々議員

新得町では各家庭に手話の表が配られています。配られただけでは使い方がよくわかりません。認知症キッズサポート・養成講座のように専門の方から学んだり、実際に耳の不自由な方と交流できたりしたら手話も少しずつ身につくのではないかと思います。1年に何回か手話の先生に学校に来ていただいで、手話を学ぶことはできないでしょうか。

答弁

(浜田町長)

学校の皆さんと手話の関わりがあることは大変良いことだと思いますので、学校の先生と相談しながら学ぶ機会を作るように教育委員会も含めて相談をして対応していきたいと思えます。

水道が復旧して2ヶ月近くが経ち、蛇口を捻ると水が出るのが以前のように当たり前になってしまい、断水していた時の不便さや大変さのことをごんごん忘れてしまってきています。しかし、このような災害はまたいつ起きるかわかりません。自然災害などで再び断水になった時を想定して、1年に1回か2回「節水の日」を設けて、できるだけ水を使わずに過ごしてみること、いざという時に慌てずに対応できるし、水のありがたさを知る良い機会になると思っています。

答弁

(浜田町長)

改めて水の大切さを知ることなどで大変良い提案だと思います。どんな日かふさわしいかも含めて考えていきます。もし、皆さんの中でこんな日がいいということがあれば後にも伝えてもらえればと思います。

耳や身体の不自由な かたに対するまちづくりの計画について

戸塚結理、大森奈々、廣澤桃羽、鳥井清登、清水千晴 議員(屈足南小)

質問

(戸塚結理議員)



戸塚結理議員

私達は、総合的な学習の時間に新得町について調べている中で、人口に対して耳の不自由な方が住んでいる割合が全国的にも高い町であることを知りました。

また、耳の不自由な方が暮らしやすい町を目指し、手話条例を制定したり、役場の職員の方が、手話の講習会を行ったりしていることも知りました。

今後、耳の不自由な方たちを始め、体の不自由な方たちにとって、より暮らしやすい町にするために、他にどのような計画があるのか教えてください。

答弁

(浜田町長)

皆さんがこの町で生活をされている方は耳の不自由な方だけではなく、体や心の不自由な方など、年齢ともに体が不自由になってき

のマークがあることを知りました。でも、このようなマークがあることは今回調べるまではまったく知りませんでした。せっかくこのようなマークがあっても相手に伝わらなければ意味がありません。そこで、耳の不自由な方が安心して利用できるように手話ができることか、筆談ができるというマークを施設やお店の入り口に貼っておくと良いのではないかと思います。

答弁

(浜田町長)

議員からお話があった内容については、少しでもお互いが意思の疎通を取るのに必要な一つのことだと思っております。十分に内部で議論させていただいて、前に進むように努力をさせていただきたいと思えます。

「そばくる」の利用人数について

駒井乙姫、佐山倫太郎、廣瀬奏、伊藤優穂、渡部凜 議員(新得小)

質問

(駒井乙姫議員)

た方を含めて、本当にたくさんの方が生活をされています。このため、すべての町民の方がこの町で安心して暮らせるように、平成27年12月に障がい者条例を制定しました。

この条例は、大きく分けて3つの基本的な考え方があります。一つ目は「障がいがあっても差別を受けることなく暮らしやすい地域をつくること」、二つ目は「障がいがある人とない人が相互に理解をし、ともに生きる社会をつくること」、三つ目は「障がいがあっても社会に出て、いろいろな行事に参加したり、仕事ができる地域をつくること」を目指していくものです。この三つの基本的な考え方を踏まえて、障がいがある方の暮らしやすさを解消し、安心して生活できるまちづくりを進めていきたいと思います。

その他には、障がい者基本条例の考え方に基づき、具体的なサービスを提供するための「障がい福祉計画」や高齢者になって体が衰えても地域で暮らしていくための「高齢者保健福祉計画」などもあり、町民の皆さんが生まれてから亡くなるまで安心して生活ができるための計画を作成しています。

新得町のコミュニティバス「そばくる」について質問です。

登下校中に「そばくる」をよく見かけるのですが、あまり利用している人を見ることがありません。乗っている人を見かけても1人か2人程度です。

1ヶ月に利用している人はどれくらいいるのですか。

「コミュニティバス」の「そばくる」は児童生徒の皆さんやお年寄りの方、体の不自由な方々が病院やお店に買い物に行くことなど、日常生活を支えるためのバスとして新得と屈足間の行き来を含めて町内を巡回しています。

バスの運行は、平成25年10月から始めましたが、利用者は昨年の結果を見ますと、年間で延べ約9800人、月平均では延べ約810人の方々に利用されています。

また、乗り降りの多いバス停は、駅やスーパーの近くのほか、病院や公民館、温水プール、保健福祉

答弁

(浜田町長)



駒井乙姫議員

新得町のコミュニティバス「そばくる」について質問です。

登下校中に「そばくる」をよく見かけるのですが、あまり利用している人を見ることがありません。乗っている人を見かけても1人か2人程度です。

1ヶ月に利用している人はどれくらいいるのですか。

廣澤桃羽議員

質問

(廣澤桃羽議員)

今回、ごども議会の質問を考えるために、いろいろと調べている中で、耳の不自由な方が自分が見えなくてわかってもらえない



廣澤桃羽議員

答弁

(武田教育長)



武田教育長

今現在、総合学習で専門の方から様々な事を学ぶ授業を行っていること認識しています。また、屈足南小学校と新得小学校で土曜授業としてもそのような授業を行っていますので、そういう中で耳の不自由な方と交流したり、手話の先生から学ぶ授業ができればと思いますので、また少し考えさせていただきます。